

トーマス・レヒナー氏マスタークラス報告書

11月23日(金)に、ウィーンフィルソロティンパニストのトーマス・レヒナー先生をお招きし、マスタークラスを開催しました。レヒナー先生は、まだ学生だった19歳の時にウィーンフィルのオーディションに合格、初めは打楽器奏者として、その後数年前にあったソロティンパニストのオーディションにもあらためて合格し現職につかれています。オーケストラでの演奏の他、グラーツ芸術大学教授として後進の指導にもあたっています。

まだ32歳という若さで、打楽器コース学生とも友達のような気さくさで接して下さり、そのレッスンは音色、奏法、楽曲との取り組み方など細部において丁寧でわかりやすく、またとても深い内容のものでした。

今回レッスンを受講した3名の学生は

◇マスタークラスを受講して、演奏する上での音の創り方やアプローチの仕方を学ばせて頂き、再認識することが出来ました。プロのティンパニストがどうあるべきかを肌で感じる事が出来、とても有意義な時間でした。(受講曲・ベートーヴェン第9ティンパニパートより)

◇マスタークラスで演奏するのは初めてで、とても緊張していましたが、先生はとても優しく、リラックスしてレッスンを受けることが出来ました。基礎的な事から応用に至るまで満遍なく教えて頂き、音程のない太鼓だからこそ歌心を持つことが大切だということに気付かせて頂きました。(受講曲 ルボン b)

◇レッスンの中で「音を出す前にどんな音で演奏したいかを想像する、歌ってみるなどしてイメージを固めてから演奏しなさい」と言われ実際に歌ってみたり、体の動きなどで表現したりととても勉強になりました。(受講曲 クナウアー ティンパニエチュードより)

などの感想を持ち、この3名は勿論のこと、聴講していた学生にとっても大変充実した時間となったことと思います。レヒナー先生も「みんな真剣に取り組んでくれてとても楽しい時間だった」と喜んでいらっしゃいました。

また、この日はオープンキャンパス日だったので、オープンキャンパス参加の高校生さん達にも見学、聴講して頂くことが出来たのも良いタイミングでした。

